

## 日々の授業が命

私は新採から三年間ろう学校で勤務した後、全日制の高等学校へ赴任した。体育教員にとっては、部活動において生徒が優秀な成績を収めることが大きな夢であり、私も、全日制の高等学校赴任と同時に自分の専門の競技で「日本一」を育成することが目標となった。

赴任先で出会ったA先生は全国大会で何回も優勝者を輩出し、全国に名が響き渡る名指導者であった。先生がなぜ全国で優勝する選手を育成できるのかは、すぐに理解できた。それは、過去の選手の筋力測定、体力測定の記録等、詳細なデータが莫大な資料として累積されていたからである。その労力は相当なものだと理解できた。選手は過去の先輩の記録を見て、それを上回れば自信をもって大会に臨み、下回っていれば練習に取り組む姿勢がさらに厳しくなった。その積み重ねが、全国大会何連覇と繋がったのだと思っていた。

しかし、先生は私にこう言われた。

「部活動で日本一の選手を育成することは、厳しい練習を課し、データを累積するだけで達成できるものではない。教育者は部活動が主たる仕事ではなく、日々の授業が命である。日々の授業に一生懸命取り組むことで、先生方が認めてくださり、さらには協力までしてくださるようになる。その結果、生徒たちは育ち日本一の選手が育つのである。」

先生は、放課後、部活動の指導に要する時間を確保するために、いつも朝早く学校へ出勤し、生徒の質問教室や補充授業を実施しておられた。

私は今でも先生から言われた「日々の授業が命」の言葉と、朝早く学校へ出勤されていた姿を鮮明に覚えている。それ以来、私は、自分なりに教材研究に努め一生懸命日々の授業に取り組むとともに、誰よりも早く出勤することが日課となった。そのおかげで日本一の選手も育てることができた。

その後、A先生は校長を経て退職され、私は特別支援学校の校長となった。

特別支援学校の先生方の授業は感動に値する素晴らしいものである。情熱をもった先生方の授業だからこそ、障害のある子供たちが社会で自立できるまで育つのだとつくづく思う。